

三井住友ファイナンス&リース(株)
電子デバイス設備部長

貴船 和之氏

三井住友ファイナンス &リース(株)(S.M.F.L.)は、1990年代前半から約30年にわたって半導体中古製造装置売買ならびに設備リース事業を展開している。

三井住友ファイナンス &リース(株)(S.M.F.L.)は、1990年代前半から約30年にわたって半導体中古製造装置売買ならびに設備リース事業を展開している。

昨今の半導体市場は、

スマートフォンの成長鈍化やメモリー価格の急激な暴落を受け、



スマートフォンの成長鈍化やメモリー価格の急激な暴落を受け、

変化する半導体の事業環境に対応

総合力・専門知識で顧客サポート

設備投資が継続している。これらの領域では、新規装置に加え、中古製造装置を活用した生産能力の増強が不可欠であり、中古製造装置の売買を手がけるサプライヤーには、装置に対する目利き力に加え、今後のプロセス技術を見極める幅広い知見・判断力、ターン

装置の売買から設備リースまでを幅広く手がけるS.M.F.L.は、長年培った経験・ノウハウならびに専門知識の総合力が、顧客から高い評価を得ており、デバイスメーカーの経営層などからアドバイスを求められることも多いという。

電子デバイス設備部長

ナ前のレベルにまで戻すことができた。上期に仕入れを手がけた2000台を超える150mm装置については、計画どおりにお客様への引き渡しを完了するとともに、その他大口の売買案件も手がけたことで、計画を上回る収益を確保することができた。

なエンドマーケットでみると、中国向けが約5割、それに韓国・台湾が続くが、日本の引き合いも急増した。

一方、仕入れにおいては、一部で生産調整などの動きもありメモリーメーカーを中心に出物が増えた。また、国内でもメモリーメーカー以外から社が特に注視しているのが、10月に発表された米国による中国半導体業界に対する輸出規制の強化による影響だ。

当社では、新品の設備リースから中古製造装置売買までを手がけている。様々な角度からソリューションを提案することで、潜在的なおお客様のニーズ発掘に協力していきたい。

キーでの調達に対応可能な総合力が必要となる。

一方で、半導体業界を取り巻く事業環境に目を向ければ、コロナ禍による物流の混乱やコストの高騰、急激な円安など、状況は目まぐるしく変化し、舵取りが難しい状況が続いている。中古製造

の貴船和之氏に、半導体業界の事業の概況、今後の展望などについて伺った。

22年度上期における中古製造装置売買事業の進捗は。

貴船 車載半導体やパワー半導体関連では、供給不足などもあり旺盛な投資が継続しており、200mmを中心に中古製造装置の引き合いも非常に多くいただけた。最終的

の出物も増えたことから、グローバルに装置ニーズ情報を収集し、適正な在庫の確保に努めてきた。

下期に向けて。

られるが、レガシープロセス製品が9割以上を占める車載半導体や、カーボンプロセッサの現実に向けてキーデバイスとなるパワー半導体関連では旺盛な

貴船 21年度を振り返ると、中古製造装置、リースともに案件を着実に積み重ねることで、コロ

貴船 円安や物流などの課題もあるが、今期も通期では目標は達成できている見通しだ。一方で、当

設備リース事業の概況はいかがですか。

設備リース事業の概況は、国内回帰を進める企業が増加しつつあり、財務戦略や資金調達の多様化のため、リースを検討されるお客様が多い。補助金を活用し

半導体市場は、中長期的には堅調な成長が見込まれているが、足元のビジネス環境や技術動向は不透明な要素も多くある。そのため、お客様から経営レベルのビジネス戦略などを相談いただくケースも増えてきている。当社には、長年培ってきた知見・ノウハウならびに業界に対する専門知識に裏打ちされた総合提案力があることから、今後もお客様へのサポート、課題解決に努めていく。

(聞き手・清水聡記者)